



## 待降節第 4 主日 (マタイ 1:18-24)

神は我々と共におられると声を上げよう

待降節第 4 主日、ご降誕まで 1 週間と迫ってきました。ヨセフの取った行動から、これから 1 週間の過ごし方のヒントをいただくことにしましょう。

皆さんは夢を見ることがあるでしょうか。夢を見た時、夢から何かを感じるでしょうか。わたしは、夢を解いてくれる人がいたらぜひ話を聞いてみたいと思っています。ヨセフは夢を見て、しかも夢の中できちんと解説もしてもらって、目が覚めたらどんな行動を取るべきかを示してもらいました。うらやましいです。

わたしは時々うなされる夢を見ることがあります。しかし、ヨセフのように解説してもらったことはありません。わたしが夢でうなされるのは決まっていくつかの条件に当てはまる時です。一つは、夜中の 2 時とか 3 時とか、本当に遅い時間に寝て夢を見ると決まってうなされます。

そしてその夢はさまざまなバリエーションがありますが、どれも同じテーマです。それは「急いでいるのに間に合わない、必死に探すけれども見つからない」この繰り返しです。入祭の歌が流れてきてミサが始まったのに、祭服が見つからずに 5 分経っても 10 分経っても入堂できないとか、仲間と旅行に出かけるために空港に来たけれども、いくら探しても航空券が見つからないとか、さまざまなバリエーションで同じテーマの夢を見るのです。これはいったい何を意味しているのでしょうか。主の天使が教えてくれたらいいのになあと 생각합니다。

さてヨセフも夢を見ました。ヨセフは思い悩んでいました。マリアとひそかに縁を切ろうとまで思っていたのです。それはきっと、マリアの心をまだヨセフは知らなかったからです。マリアは、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」(ルカ 1・38) と答えた女性です。神の望みのままにわが身を差し出す人であることができたなら、あのように思い悩むこともなかったでしょう。

ヨセフは正しい人でした。ヨセフもまた、神の望みのままにわが身を差し出すことのできる人でした。実は二人は一緒になる前から、同じ思い、同じ理想、同じ価値観を持っていたのです。

しかし、当時は結婚するまで一緒になることは考えられない時代だったので、マリアの思いを知ることもできず、一人で思い悩むことになりました。そこへ主の天使が現れて、「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである」と声をかけたのです。マリアの思いも、ヨセフの思いも理解している存在が二人を仲介してくれたのです。

ヨセフは夢の中で、マリアが自分と同じく神の前に正しい人であることを知ります。主の天使のさまざまな説明がヨセフに勇気を与えてくれますが、わたしはマタイ福音記者が証言しているように、「インマヌエル」「神は我々と共におられる」この理解がヨセフを決断させたので

はないかと思うのです。

ヨセフもまた、「神は我々と共におられる」と常々信じていたことでしょう。それはマリアも同じ思いでした。人間にすぎない自分たちには理解を超えるけれども、出来事の向こうには「神は我々と共におられる」との神の思いが働いている。そうであるなら受け入れよう。マリアにとっても、ヨセフにとっても、それは同じだったのです。

「それなら、わたしの思いと同じだ。」ヨセフの腹は決まりました。自分も、マリアも、「神は我々と共におられる」と確信している。同じ思い、同じ価値観を持っているのだから、きっとどんな困難も乗り越えていける。主の天使が夢に現れたことで、一人で思い悩んでいたら永遠に解決できなかつた疑問が解けたのだと思います。

わたしたちも、ヨセフの取った行動をこの一週間思い巡らしたいのです。神は今、わたしたちに何をしようとしておられるのでしょうか。答えは福音朗読で示されました。「神は我々と共におられる」そのことを証明しようとしておられるのです。

社会はいまだに、正しい人が正しい報いを受けにくい状況にあります。上手に動いた人がいい思いをしたり、裏で不正を行っていても、運よく見つからなかったとか追及されなかったと思いがっている人がいます。一人思い悩んで泣いている人、正しい訴えが取り上げられずに絶望しかけている人がいる。そんな中で、神は行動を起こしてくださり、「神は我々と共におられる」と声を上げてくださったのです。

そうであれば、眠りから覚めたヨセフが妻マリアを迎え入れたように、わたしたちも行動を起こす必要があります。わたしたちは現代にあって、「神は我々と共におられる」と、声を上げる人なのです。声を上げることが難しいと感じるなら、忠実に教会の務めを果たすことで、「神は我々と共におられます。わたしたちはその神の導きを優先します」と、態度で表しましょう。

キリスト者が一人残らず「神は我々と共におられる」と言葉や態度で証するとき、まもなく与えられる神の御子はわたしたちにとって喜びとなり、勇気と力を得る源となるでしょう。そして、「あなたたちの信じる神は、わたしたちにとっても共にいてくださるのでしょうか」と尋ねる人に、自信をもって「そうです」と伝えることができるようになるはずです。

「神は我々と共におられる。」わたしたちは間もなく、幼子イエスを通してそのことを確認します。わたしたちの心に、イエス様をお迎えする部屋を整えて、残りわずかとなった日々を大切に過ごしてまいりましょう。